

建設中の「総合体育館」かわまち広場も着工！



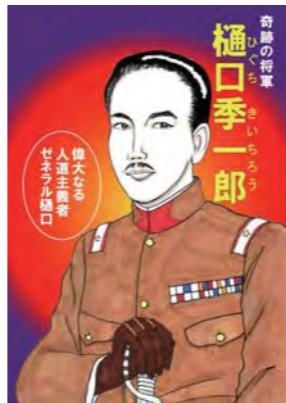
芦田川河川敷にBBQ広場、スケボーパーク、イベント広場やオープンカフェの設置、ウォーキングコースやサイクリングロードの新設、カヌーやバスフィッシングボートを降ろすスロープなど、市民の皆様のニーズに対応した河川敷の多様な利用が可能になります。



2020東京オリンピックに向けて盛り上がることを期待しています！(2020年3月完成予定)ネーミングライツも募集しています。

郷土ゆかりの偉人 樋口季一郎

昭和8年～福山41連隊長、昭和12年～ハルピン特務機関長「オトポール事件」にて多くのユダヤ難民の命を救う。その後パーフェクトゲームと呼ばれたキスカ島撤退作戦や、ソ連から北海道を守った占守島の戦いを指揮した。



樋口隆一氏(明治学院大学名誉教授) 講演会「祖父・樋口季一郎将軍を語る」

日時：4月6日(土) 14時～
 会場：備後護国神社・参集殿
 参加費無料、どなたでも参加できます。

大田ゆうすけ&小林ふみあき・市政&国政報告会

日時：3月30日(土) 14時～ 会場：大田記念病院4階会議室
 恒例の市政&国政報告会です、多数ご参加ください。

お名前間違い・転居等による変更、配信不要の方はご一報ください。

大田ゆうすけ事務所 TEL:084-932-7855 FAX:084-921-8801 メール:orion@urban.ne.jp

水曜会

第46号

平成31(2019)年1月発行

発行者 福山市議会 水曜会
 住所 〒720-8501
 福山市東桜町3番5号
 電話 084-928-1123
 FAX 084-920-1104



十二月定例市議会



福山市議会 水曜会の面々

浸水対策として、浸水被害が多発する手城川や瀬戸川流域などを中心

浸水対策に
3億7840万円

本会議は十二月三日開会。平成二十九年度一般会計など16件の決算を認定。また、西日本豪雨の浸水対策費や、エアコン設置事業費などの一般会計補正予算案や、新電力会社設立のための出資金を盛り込んだ補正予算案など44議案を賛成多数で可決しました。

12月補正予算額

一般会計	102億5,650万円
特別会計	2億0,990万円
企業会計	8,100万円
2次補正(総額)	△3,709万円
全会計合計	105億1,031万円

市立の全小中学校1609室に、エアコン設備を設置する為の事業費で、来年度中に整備が完了します。

来年度中、市立の全小中学校のエアコン設備設置に6億1900万円

に、水路の土砂撤去や来年度以降の浸水対策としての、調査設計費などです。また、土地改良区施設整備補助として、排水機場ポンプ設計・水路掘浚などです。

12月一般会計補正予算(主な事業) 1次分

浸水対策の推進	3億7,840万円
1. 一般会計	3億3,740万円
水路維持改良費	1億5,500万円
交通安全施設整備費 国庫補助事業	5,400万円
河川維持改良費	3,450万円
土地改良区施設整備補助(干田排水機)	3,390万円
土地改良区施設維持管理費補助	1,700万円
耕地施設維持費	1,400万円
道路新設改良費	1,200万円
橋梁新設改良費	1,000万円
道路維持費	700万円
2. 下水道事業	4,100万円
建設改良費	4,100万円
通常分	101億6,910万円
1. 教育環境の充実	60億1,980万円
小中学校空調設備整備	60億1,980万円
2. 安心・安全の実現	3億7,500万円
3. その他	37億7,421万円

※その他は8事業ありますが、紙面の都合で掲載していません。

民間資金を活用したPFI方式の計画から、交付金の活用で起債の充当率が100%となり、地方交付税も引き上げられ

新電力会社を介した供給で、電力料金の削減やエネルギーの「地産地

木村秀樹氏が、十月二十六日、逝去されました。平成二十四年に初当選し、現在二期目でした。まだまだ、これからの時であり、痛恨の極みです。水曜会は、本人の遺志を引き継ぎ、福山市政発展のために、全力を傾注します。



お悔やみ 申し上げます

福山市「新電力会社」設立に、資本金1000万円を拠出

本市は、市が参画するRDFを活用した電力小売りの「新電力会社」を設立します。新会社の資本金1億円の内、本市が1000万円を拠出します。新電力会社を介した供給で、電力料金の削減やエネルギーの「地産地

一般会計 水曜会の賛成討論

本予算は、本市過去最大の102億円の補正予算であり、そのうち95小中学校の空調設備整備費60億円余です。

これは、20億円の教育環境整備基金繰入金、32億円の義務教育施設整備事業債(市債)、8億円の国庫補助金でまかなうものであり、その他、浸水対策事業を含め、早期完成を求めて賛成しました。

一般質問に、水曜会から6人が登壇 枝廣市長を質す

十二月議会の一般質問者は、左記の通りです。
 ○小林茂裕 ○熊谷寿人
 ○高田健司 ○大田祐介
 ○橋原則男 ○喜田紘平
 詳細は、二月一日発行の「福山市議会だより」に掲載されます。



photo:高瀬和恵



旗振り役の浦項市議会議長

浦項市の慰安婦像

韓国国内ならまだしも姉妹都市サンフランシスコに慰安婦像を設置されたことにより大阪の吉村市長は姉妹都市解消を表明した。交流の美態は乏しく、提携解消のデメリットは少ないと判断したのでろう。同志社大学の村田寛嗣教授は「毅然とした態度に見えるかもしれないが、自治体が当事者意識を持って外交に関わるという観点からすれば短慮」と指摘している。同じく慰安婦像のある釜山市の姉妹都市・福岡市は「耳の痛い事も言う」と度々懸念を伝えてくる。

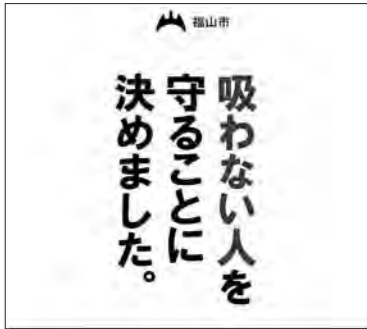
実は福山の姉妹都市・浦項市にも2年前に慰安婦像が建てられている。私は慰安婦像を否定はするが、拙速な姉妹都市解消には賛成できない。なぜなら平成8年以来、浦項市からは毎年職員が福山市役所に派遣されている。今年で通算11人目、毎年優秀な職員が派遣され両市の交流に尽力されている。

「祐介の目」

40年前のボスコ製鉄所へ技術支援以来の姉妹都市提携、浦項花火大会や福山ばら祭において相互訪問し、私も昨年の花火大会にて初めて浦項を訪問した。郊外には九龍浦という旧日本人町が保存されており、100年前は多くの日本人が住んでいたことを知った。朝の朝鮮通信使のユネスコ記憶遺産認定や日韓トップ囲碁対局など、福山と朝鮮半島は長い交流の歴史がある。隣国との協調が国際紛争抑止の基本であり、地政学的に見れば北朝鮮、中国等の脅威に対抗するために日韓の齟齬は重要だ。日韓の関係悪化を喜ぶ国や団体が情報戦を世界各国の自治体に仕掛けて政治を動かしている。その一つが世界に拡散される慰安婦像であり、姉妹都市解消は彼らの思うツボだ。

昨年末に退任された除張恩・駐広島韓国総領事も浦項出身であり、日韓の国交正常化50年の記念行事を各地で開くなど、両国の関係改善に尽力された。除氏は3年9月月の任期を振り返り「人と人との信頼は国家間の関係を乗り越える力がある」と述べられていた。福山市が当事者意識を持って外交に関わるチャンスを潰してはならない。

昨年10月に東京都が子どもを受動喫煙から守る条例を制定した。条例制定の立役者は私の高校の後輩である岡本光樹都議で、罰則は無いがいかなる場所（家庭内や車中）においても子供の受動喫煙防止に配慮を求める内容であり、大きな反響を呼んだ。一部メディアは「自宅でもたばこダメ条例」と報道し、都議会自民党は「法は家庭に入らず」と反対した。これらはまったくの誤解で、子供は親が喫煙者の場合、自らの意



受動喫煙防止ポスター

受動喫煙防止条例

国際オリンピック委員会（IOC）は五輪開催国に原則屋内禁煙を求めており、平昌五輪を開催した韓国は段階的な規制強化とその周知を経て、ほぼIOCの要請とおりのたばこ規制を実施した。次は東京五輪だが、福山市もメキシコのオリンピックチームの受け入れが決まっており対応が急務である。まずは子供と妊婦の受動喫煙対策をと考えている。

昨年10月に東京都が子どもを受動喫煙から守る条例を制定した。条例制定の立役者は私の高校の後輩である岡本光樹都議で、罰則は無いがいかなる場所（家庭内や車中）においても子供の受動喫煙防止に配慮を求める内容であり、大きな反響を呼んだ。一部メディアは「自宅でもたばこダメ条例」と報道し、都議会自民党は「法は家庭に入らず」と反対した。これらはまったくの誤解で、子供は親が喫煙者の場合、自らの意

「祐介の目」

思て受動喫煙を避けることが困難であり保護の必要性が高いから条例を制定したわけだ。特に妊婦の喫煙や受動喫煙の胎児に及ぼす影響は深刻で、乳幼児突然死症候群の発生率が高い等の医学的根拠は多くの研究により立証されている。この2月6日には私の所属する市議会「水曜会」有志で東京都議会を訪問して岡本都議から条例提案に至る経緯を学び、2月18日には福山で岡本都議の講演会も開催され、受動喫煙対策には多くの政治的課題がある事を話された。これらを踏まえて市議会は医師会や保健所とも協議して議員発議で「福山市子ども及び妊婦を受動喫煙から守る条例」を3月議会にて提案する予定だ。この条例は決して「禁煙条例」すなわち喫煙する権利を制限する内容ではなく、望まない受動喫煙・煙を吸いたくない権利を保障する内容なので愛煙家の皆様にはぜひご理解いただきたい。

3月22日の議会最終日において市民の代表である福山市議40人が全会一致で条例を可決制定できれば、福山市の受動喫煙対策が一步前進すること間違いのない。多くの市民のご協力をお願いしてスムーズにリー社会を実現したい。



ライダー有志が開通日に設置

グリーンラインの規制解除

昭和60年以降グリーンライン（県道後山公園洗谷線）は原付・自動二輪終日通行止めとなつている。昨年、NPO法人グリーンラインを愛する会に對して、ツーリングの道中にグリーンラインに立ち寄り違反切符を切られたライダーから規制を疑問視するメールが寄せられた事から規制解除の検討が始まった。この2月22日には福山西警察署が道路周辺の住民に対して説明会を開催した。近年は事故や苦情も減り、規制解除に向けて理解を求めたところ住民も理解を示したという。

通行止めとなった当時は大変なオートバイブームであり、グリーンラインでも多数の死亡事故が発生した悲しい歴史がある。また街中ではマフラーを改造して爆音を響かせる暴走族が走り回り、オートバイに對する市民のイメージは最悪であった。あれから33年が経過してオートバイブームは去り、組織的な暴走族も激減して現在はツーリングを楽しむ正統派のライダーが中心だ。私は、内海大橋を望む新たな公園も建設されるなど、福山市の大きな観光資源であるグリーンラインを有効利用すべく市も警察と連携して規制解除に向けて踏み出されては？と3月議会でも質問した。枝広市長からは「地域住民の理解や交通の安全性の確保を前提とした規制解除を期待している。規制解除により新たな魅力的なツーリングルートとなることが期待される」と大変前向きな答弁を得た。

「祐介の目」

また1月末から、春になれば風光明媚な燧灘を眼下に沿道の桜を眺めながらグリーンラインを走ろうと、facebookで規制解除を要望するライダーによる署名活動が始めた。それは規制解除を求めるだけでなく、安全運転を誓う内容のものだ。大きな反響を呼び、3月19日には723筆の署名を西署の佐々木署長に提出したところ、県警に對して上申することを約束してくれた。最終決定は広島県公安委員会だが、規制解除のあかつきには白バイを先頭に交通安全「自動二輪再開パレード」をやりたいと要望させていただいた。

これは交通渋滞対策に過剰なインフラ投資を行った道路行政の行く末に似てはいないか。未来図は車社会の終焉を予見している。ではマイカー社会から公共交通主体のまちづくりに向けて舵を切るべきだろう。例えば京丹後市では赤字バス路線にかなりの税金を投入していたが、思い切って運賃の上限を「どこまで乗っても2000円」にしたところ、利用者が倍増して赤字も解消したという。福山の「まわり道」も運賃を1500円から1000円に値下げして利用者増を図ってはどうか。



建設中の新総合体育館

かわまち広場の整備

私が議員になった動機は芦田川の水質ワースト1の返上であった。乗らなくなった自車がすく積むのと同様に、市民の関心が薄れた川は汚いままだろう。そこで小林史明代議士と相談した結果、芦田川を活用する会・芦活部が結成され大人の運動会の開催等により官民一体のかわまち広場整備の下地を作った。

私も競馬場跡地に建設中の新体育館は隣接する芦田川河川敷と一体的な利活用が望ましいと議会で提案し、小林代議士の尽力により河川敷に国土交通省のかわまちづくり支援制度（補助金）を活用したかわまち広場の建設が決定した。この広場で何ができるか、市が示した構想図ではマラソン大会や、とんど、出初式、ポート等の水上スポーツが楽しめる予定だ。芦活部としても広場の一番北側にスケボー、BMX、インラインスケート等が楽しめる

「祐介の目」

先日、山岳会の会長として広島で開催されたFISE（ファイセ）を観戦したが、難易度の高いボルダリング壁が設置してあり、スパイダーマン顔負けのテクニックで壁を登る様子は手に汗握る迫力があった。他にもスケボーやBMX等のアーバンスポーツのカッコ良さに観衆の多くが魅了されていた。今まで子供の遊びと見られていたスケボーが実はプロスポーツであり、颯爽と滑るスケーターの姿は新たな時代の幕開けを感じさせた。新体育館に建設中のクライミング壁と併せて東京オリンピック新種目すべてが楽しめる施設が福山にできれば、オリンピックムーブメントの醸成に寄与するだろう。

また芦田川はバスフィッシングのメッカでもあり、バスポートを手軽に川に下せるスロークも建設される。さらに老朽化した河川敷の歩道もリニューアルされ、ウォーキングコースとサイクリングコースの二本が整備される予定だ。芦田川を多くの市民が活用するようになれば、また昔の芦田川を取り戻そうという声も上がるだろう。河口堰開放に向けての道筋も見えてくるのではないだろうか。

西日本豪雨災害



泥かき出しボランティアに参加

7月4日から降り始めた豪雨、福山市でも土砂災害や冠水等の多くの被害が発生した。被災された皆様に心からお見舞いを申し上げたい。近隣の市町と比較すれば被害はまだ軽度と言え、芦田川の流量データを分析すれば危機は目前であった。

まず芦田川流域の洪水を制御する八田原ダムを検証する。八田原ダムは平常時2300万トン貯水しており、洪水時の調整容量として3400万トンを空けて合計5700万トンの貯水能力がある。6日22時にダムへの流入量は毎秒800トンを超えたが、放流量は最高でも毎秒3803トンに抑え約半分に調整していた。降雨が小康状態になった7日の12時の貯水量4000万トンをピークに貯水量は減少を始めていく。ダム目的である洪水調整機能を見事に果たした。次に芦田川河口堰だが、私は

「祐介の目」

7日の11時（干潮）に堰の様子を見に行った。河川敷が完全に水没する程の流量にもかかわらず河口堰のゲートは全開していなかった。中央4門のみ全開、両サイドの6門は半開で約7割の開口であった。すぐ管理事務所にお問い合わせたが、所長の見解としては現状ベストのゲートコントロールをしている。確かに全開すれば放流量は増えるが全開後のリスクも大きい。すなわち河口湖が塩水化し工業用水として使用できなくなるという。

さらに詳しい検証が必要だが河口堰を全開できなかったためか、7日0時の芦田川山手観測所の水位は過去最高の6mに達し氾濫一歩手前であった。さらに本流の水位上昇により瀬戸川や高屋川はバックウォーター現象により逆流してその支流の福川や吉野川が溢れた可能性は否定できない。八田原ダムが機能していなければ芦田川は決壊し、真備町や三原市と同様の被害が生じていたであろう。今回の豪雨災害を教訓に工業用水の代替水源を真剣に検討しなければならぬ。私の提案する下水処理水を再生して工業用水に転用し、河口堰は潮汐発電所として活用する構想を検討するプロジェクトチームを立ち上げたい。



ドローンタクシーも実現？

30年後の未来図

昨年、市長の提案で開催された「ふくやま未来づくり100人委員会」は、30年後の福山の未来図の完成をもって終了した。この未来図は福山市HPに公開されているのでじっくり見てほしい。私が子供の頃に流ったテクノポリスのな未来図ではなく、歴史・伝統・文化・自然を大切にしようという姿勢が伝わってくる。芦田川から河口堰が無くなっているのが良い例だ。

未来図には車の代わりにドローンタクシーやラッキョウ自動車（自転車、自転車、人力車、水上交通など多種多様な公共交通が描かれている。少し話がそれるが、30年前に映画「私をスキーに連れてって」が流行した当時のスキー場リフトは30分〜1時間待ちという混雑ぶりだった。以降、少子高齢化やレジャーの多様化が進み、温暖化による降雪もあり現在はこのスキー場も経営が苦しい。

「祐介の目」

これは交通渋滞対策に過剰なインフラ投資を行った道路行政の行く末に似てはいないか。未来図は車社会の終焉を予見している。ではマイカー社会から公共交通主体のまちづくりに向けて舵を切るべきだろう。例えば京丹後市では赤字バス路線にかなりの税金を投入していたが、思い切って運賃の上限を「どこまで乗っても2000円」にしたところ、利用者が倍増して赤字も解消したという。福山の「まわり道」も運賃を1500円から1000円に値下げして利用者増を図ってはどうか。

また、輛に向けてラッキョウ自動車の復活は難しいかもしれないが、検討するだけでも夢がある。フランスのストラスブールなどは駅前から車を排除して路面電車の乗り入れにより中心市街地が賑わっている。路面電車LRTが無理なら、軌道が必要としない連結バスBRTという案もある。先頭車両にラッキョウ型煙突を取り付けるだけで雰囲気がある。いずれにしても30年後に車を運転できる人がどれだけいるのか、未来図のような社会が実現しないと困るのは我々自身である。未来図の実現に向けて市役所も一丸となって取り組む必要があるだろう。